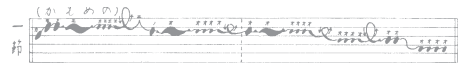


やんさんエ

会報

2008 No.10



発行 江差追分会

2008.9.25

北海道松山郡江差町中歌町193-3

TEL 0139-52-5555

FAX 0139-52-5544

ホームページアドレス <http://www.hakodate.or.jp/oiwake/>



国際メディアセンター・北海道情報館 開所記念レセプション

International Media Center & Hokkaido Information Plaza Opening Reception



次世代育成は、私たちの責務！

江差追分会会長 濱谷一治

世界の二〇五の国と地域から様々な人々が北京に集い開催された「平和の祭典・オリンピック」。

特に今回で最後となる「ソフトボール」の決勝戦は球史に残る名勝負でした。エース上野投手の力投、山田主将の本塁打などついに悲願の「金」メダルを手にしました。八年後の五輪に向け、多くの子供たちに「感動・夢」を残してくれました。

昨年の記念大会のアトラクションでは、民謡の宝庫である秋田県、青森県のこどもたちにより江差追分と関わりのある秋田追分や南部追分等の唄と鮮やかで見事な手踊り等が披露され、拍手喝采を浴びました。

また、江差町の子供たちの唄った追分は「天使の声」となって、たくさんの観衆を感動と感涙の渦に巻き込みました。

瞳を輝かせ、笑顔で大観衆の前でも臆せず、実に楽しそうに唄った三、四歳児。真摯な高校生四人。小中学生による九十一名の大合唱。感涙は「この子らが良くぞこの追分をここまで・・・」との感動からなのでしよう。

江差追分という唄は、人々を感動させ、生き方に勇気を与えてくれるという不思議な力を持っています。

この唄を次の世代に引き継いでいってもらうためにも、様々な環境づくりをするのが、私たちの責務であると考えています。

平成二十年度追分会総会

—北海道洞爺湖サミットの出演提供を提案—

平成二十年度追分会総会は、四月二十七日江差町ホテルニューえささで開催され、全国各支部の代表が参集して本年度予算および事業計画を審議決定した。総会では来賓の松山支庁長が「江差では伝統文化の江差追分に触れる機会ができ、会員の皆さんが追分を追求する姿勢に感動している。洞爺湖サミットが開催される機会に江差追分が世界に注目されるよう期待する」と来賓代表の祝辞を述べられた。



平成二十年度予算総額は二千九六五万五千円で、前年度の第四十五回記念大会事業費二〇〇万円減額となったが、そのほかはほぼ例年並の事業内容が盛り込まれた。

事業計画も前年の事業を踏襲して行われるが、会員の高齢化が進行する反面、若年の加入が進まず、熟年（六五歳以上）の会員構成比率が五二%と一般会員を上回り、前年度の総会から検討されてきた熟年の年齢基準の繰上げと決選枠の改正が提案された。

宣伝普及事業では本年、北海道洞爺湖サミットが七月開催されることから、主要八カ国ほか参加二十三カ国の首脳来道機会に、北海道の伝統文化である江差追分の出演提供を働きかけるよう提案された。

追分会の基本的な普及事業として

継続している追分セミナーは、これまで冬の二月に限定されていたが、厳冬の交通事情などから参加者の希望に対応して、従来の二月のほか新たに十一月秋期講座を開設することが提案された。

一方組織拡張の取り組みでは、民

謡離れの傾向からとすれば「江差追分は難しい」と言う印象で敬遠されるくらいがあるが、「指導次第で気軽に歌える唄、楽しめる唄」のイメージを積極的に普及し、追分の関心を高める取り組みが提案され、それが決定された。

（取材 松村委員）

熟年大会の年齢基準・出場枠を改正

—第十三回大会より実施—

平成二十一年より毎年繰上げ五年後に七十歳

追分会会員年齢の高齢化が進み年齢基準の繰上げが検討されてきた。昨年理事会の運営部門で協議を重ね、本年度総会に提案、平成二十一年より実施することがきめられた。

高齢化が進むなかでも、一般出場を望む声もあり、緩和措置を講じて五年

間で七十歳に繰り上げることになった。実施は第十三回大会の二十一年から、毎年一歳ずつ繰上げ第十七回大会から七十歳になる。

熟年決選会の出場枠は第十三回大会から現在の二十名から二十五名に拡げる。



懐古・SPレコードを聞きながら(八)

江差追分を愛した百津常松師…高田 裕



百津常松

大正時代の俚謡・民謡について詳しく紹介している書籍『小唄漫考』(大15・アルス出版)のなかに、田中元吉という人が、この本の著者で民謡研究家の湯朝竹山人(たけのけいじん)に宛てた手紙がそっくり載せてある。

―(前略) 當小樽のみにても既に百二十餘名の會員有之。毎月四回開會致居候間、追分につき御研究を要する事故有之候はば百津常松へ御照合せられ候はば、尤も御便宜に御座候。(略) 大正六年六月二十一日

明治から大正時代にかけての北海

道は、石炭採掘量に反比例するかのようニシン漁が少なくなるのだが、小樽市には商社・銀行や官公庁の出先機関が集結し、それを追いかけるように飲食店や花柳界の人たちが神威岬を回り移住してきた。日本海に突き出た積丹半島の北の付け根・チョットくぼんだヘソにあたる処。

明治二二年には特別輸出港となり、三八年に日露戦争が終結したことにより雑穀商や貿易関係者は、かつてない活況を呈し必要となった小樽運河は大正三年から着工される。

いわば小樽港隆盛時代にあつてゝ浜っ子ハムッコの江差追分にかける情熱は計り知れない。と同時に、郡雄割抛の江差追分諸派乱立時代でもあり、先の百津常松の他に酒井歌丸(文作)、斉藤幸太郎、宇田茶山など多くの追分名人が、へ忍路高島およびもないが、せめて歌棄磯谷まで、と懐郷のうたに浸っていた。

百津常松(号・龍濤)は明治三年六月十四日、加賀の国・石川県能美郡で生まれている。明治二八年、二六歳のときに北前船で来道。以来、小樽市内で手広く雑穀や海産物を中心に商売をしていた。威勢のよい仲仕を雇い、デンペンや魚類などの売買はもとより、石炭や漁業用資材でかなりの財をなし成功していた。

また追分にかける情熱は、大正十三年六月一日より三日間、札幌・錦座でおこなわれた「全道追分節実力投票競演大会」の出演や、大正十四年に出版した『生粹・江差追分節』(いろは堂書店刊)にみることもできる。そしてなによりSP盤メノフォンレコードに吹き込んだ江差追分で、彼の息遣いを堪能できる。

さて、第一次世界大戦が終つた大正七年に開道五〇周年博覧会が催されたのだが、すっかり国土の荒れたヨーロッパの国々は、まず農業を盛んにし食料の自給自足をはかった。そのため北海道から輸出していた雑穀類は減少し、値段もずいぶん安くなり産業界は大きな影響をうける。

働く人の賃金も大正九年以降さがり、昭和二年には小樽港で二千人以上の労働ストライキが発生。昭和四年には不景気のドン底となつてしまふ。江差港が竣工し、瀬棚線鉄道が開通した年でもあつた。

この頃の働く人たちのことを、作家・小林多喜二はいくつかの小説に書きのこしているが、百津常松の商売も一夜にしてこの不況の時流にのみ込まれ、土地家屋をすて子供の手をシツカリ握つて小樽を後にする。

その後、落魄窮乏(らくはくきゆうぱん)の余生を余儀なくされ、昭和八年三月二五日に病いの床で瞑目する。享年六四歳だった。

北海道の民謡研究で著述家の故河合裸石氏(はなむねいし)は、小樽の百津龍濤君は蝦夷気分を保つようにして上品にすべく苦心を拂つた人で、朗々唄い出す旋律は荒涼たる濱辺から櫓をあやなして遠く漕ぎ行く浪の音そのもの、やうに聞え、一揚一抑哀音纏渺(ひょうひょう)として恰も邊塞(へんさい)に胡笳(こか)を聞くが如く、眞に江差追分の生粹である」と絶賛している。

(学芸部理事)

北海道無形民俗文化財 江差追分出演

北海道洞爺湖サミットで江差追分
出演主要参加五ヶ国先遣隊を歓迎
参加国国歌を尺八で吹奏 感動呼ぶ

北海道洞爺湖サミットは七月主要参加国八ヶ国のほか、二十三ヶ国の主
脳参加で行われた。開催に先がけて主要国先遣隊歓迎に北海道無形民俗文
化財の江差追分が招請され青坂満上席師匠、優勝者寺島絵里佳ほかが出演。
注目を浴びた。

追分出演に先がけて、尺八演奏者佐藤秀悌が、それぞれの国歌を尺八で
吹奏し参加国の感動を呼んだ。

参加国カナダ、イタリア、ドイツ、フランス、アメリカ。



尺八による国歌吹奏



カナダ国 2月26日 洞爺サンパレスホテル



ドイツ国 6月3日 ザ・ウインザーホテル洞爺



イタリア国 3月5日 札幌グランドホテル



アメリカ国 6月15日 ザ・ウインザーホテル洞爺



フランス国 6月9日 ザ・ウインザーホテル洞爺

北海道洞爺湖サミット

国際メディアセンター北海道情報館の

開所記念レセプションで追分大合唱

七月五日、洞爺湖サミット国際メディアセンター北海道情報館の開所記念レセプションで江差追分が招請され、二十名が大合唱を披露した。唄ははちまき姿の青坂満、近江八声、長谷川富夫上席師匠と寺島絵里佳、絵美姉妹。伴奏は、これまでの先遣隊に出演してきた、三味線演奏者の奥泉勇篁と尺八演奏者の佐藤秀悌の他に各地区の尺八伴奏者。そい掛けは、洪田義幸正師匠が務めた。

レセプションでは、町村信孝官房長官や国会議員、高橋はるみ知事ら約二百名の参加者の方々から喝采を受けた。

唄終了後、青坂満師、寺島姉妹等が場内を廻り江差追分のリーフレットやDVDを配布してPRした。

〈出演者〉

〈唄〉

青坂 満・近江 八声

長谷川富夫・寺島絵里佳

寺島 絵美

〈尺八〉

日胆地区

末永 弘治・児玉 彰宝

佐藤 秀悌

札幌地区

河村 洋章・成田 秀宝

川上 薫秀

函館地区

坂井 栄助・村岡 竹豊

加川 力

江差地区

福田 照明・柳谷 良逸

沢見 敏・山田 治光

〈三味線〉

奥泉 勇篁

〈そい掛け〉

洪田 義幸



江差追分の「母唄」 江差三下り(上)

江差追分会副会長
江差三下り会幹事長
馬川政紀

江差追分を愛する全国の追分愛好者の皆さんは「江差三下り」と言う民謡を既にご存知のことと思います。

江差三下りは江差追分の母唄と言われることから 今回の「ヤンサノエー」の紙面をお借りし その歴史と江差追分との係わりについて述べて見たいと思います。(二回連載)

江差の繁栄と花柳界の出現

「江差の五月は江戸にもない」と言われていた文政元年(一六九〇年代)から明治・昭和三十年代にかけて江差の花柳界(新地町界隈)は夜毎唄や三味線・太鼓の音で賑わっていました。

鯉(ニシン)の大漁で懐具合が豊かな船主・船頭・乗子(のりこ)そして鯉の大漁のおかげで商売も繁盛している大店(おおだな)の旦那衆や番頭さんが連日新地町界隈に繰り出して芸妓さんを相手に一日の疲れを癒しておりました。

お座敷では 芸妓の踊りに見惚れる人 端唄 小唄 都都逸 江差追分等に聞き惚れる人 すっかり酔いが回って寝込んでしまった人も居ました。勿論この場では「江差三下り」の唄に合せて何人かの芸妓によって踊りも披露されておりました。

むしろ 江差追分よりも三下りの出番の方が多かったとも言われておりました。

江差の最盛期の人口は二〜三万人も居たと言われ 大店が軒を連ね自然に飲食店街が切り開かれ 多くの料亭 割烹が店を構えるようになりました。

この時期の江差には百人近い芸妓さんが活躍しており その芸域の広さと芸の技能は京都や江戸の芸妓さんにも勝るとも劣らない素晴らしいものであったと言われていました。唄の修業の中には当然追分・江差



昭和11年頃の江差三下り

三下りもありましたし 踊りには追分踊り 三下り踊りもありました。

こうした芸事は代々芸妓さんから芸妓さんに引継がれ 江差追分とは違って主に花柳界の中で引継がれてきたものです。

山の唄からお座敷唄へ

ところで こうした江差の繁栄はあったものなぞ江差三下りが江差の花柳界で唄われ 踊られるようになったのでしょうか。

私ごとで恐縮ですが 私は高校生の頃母親から聴いた話をメモした事がありました。

母は明治三十一年生まれで 既に故人となつていますが 昭和二年頃から新地(花柳界)で割烹料亭を開店 自らも唄・踊り三味線 華道茶道等の修業の傍ら 芸妓兼女将(おかみ)として宴席に出て唄 踊りを披露していました。

昭和二十年 父が亡くなってから 母は料亭を閉じ 女手一つで食堂を経営し 親子五人の生活を支えていました。

一日の仕事を終えた母は 時々晩酌をしながら私を話相手になるように誘い 自分で三味線を弾きながらよく江差三下りを唄ってくれていました。

その時の話によれば「昔の新地は妻かった。三一歳で自分で料亭を開いたが 料亭を開くためには自分も芸事を習わなければならなかった。

江差三下りも習ったが 検番のお師匠さんの話では江差追分の元唄と言われる馬子唄に しつとりとした艶っぽさの響きを持つ三下り調子の三味線がついたのが江差三下りの唄になったようだ。

江差三下りは しつとりとした艶っぽい唄と踊りがあったから料亭で唄われ 踊られるようになったんだろうと。

一 江差三下りは 艶のある粋な唄として伝えられ労働歌的要素(馬子唄等)は全く消滅している。

文化年間(一八〇四〜一八一七年)には幽妙 優雅な遍路の踊りが付けれど 唄と踊りが共に伝承され その情趣は遊里的で「江差の五月は江戸にもない」と言われた優美な雰囲気を残している。(中略・・・一九九一年発行)

宮下正司氏著 「江差風土記より」
江差追分は すでにご承知の通り 中仙道で唄われていた馬子唄が北前船の船頭や乗子達によって蝦夷地に運ばれ 二上りや本調子の三味線によって主に一般大衆の間で唄い継がれてきたものである。

江差三下りの唄は 江差追分の発生源と時期を同じくしているが三下りもまた馬子唄(馬方節)が北前船で蝦夷地に運ばれ 三味線の三下り調子に合せて主に花柳界で唄い継がれてきたのが松前三下りや江差三下りとなったものでありましょう。(次回に続く)

第二十三回国民文化祭「いばらき二〇〇八」に

江差町と愛知県岡崎市の子供たちが参加



日立桑の実会支部長
桑 名 靖 生

第二十三回国民文化祭が今年は茨城県で、十一月一日から九日までの会期で開催されます。

「国民文化祭って何？」と思われる方が多いと思います。

「国民体育大会」はどなたもご承知でしょうが、国民的行事のこれは文化面のお祭り、一九八六年東京都を第一回として、一昨年は山口県、そして徳島県、今年が茨城県。来年以降静岡県、岡山県、京都府と開催府県が決まっています。

文化庁が茨城県に、県は各市町に委嘱し、企画を提出させました。

日立市は以前から小学生、中学生を対象とした子供たちのサークル活動の推進と援助に力を入れており、「文化少年団」を組織してきました。

現在二十二のサークルがあり、私共江差追分会日立桑の実会支部とし

ても、四年程前から「江差追分日立桑の実会少年団」として参加してきました。

茨城開催が決まった時、日立市民文化課から呼ばれ、日立市としてはこの文化少年団の子供たちを中心とした「こども芸術祭」を企画にしたいと各サークルに対して協力要請がありました。

私共は「こどもたちの江差追分唄と踊り」というタイトルで、本場江差町の子供たちとの交流、交歓を図るといふ申請を出し、県、文化庁からも認可を頂きました。

以来今日まで紆余曲折がありましたが、具体的に明るい展望が見えて参りました。相談させて頂いた当初より、江差追分会事務局の小田島事務局長から全面的ご協力と援助を頂き、江差から子供たちが、唄、踊り、伴奏とで十一名、愛知三河支部から三味線伴奏二名、太鼓一名の合計十四名の子供たちが日立に来てくれるこ

とになりました。とても感謝！です。こちらでは今、三年生から五年生の小学生四人の子供たちが踊りの稽古に励んでいます。

晴れの発表の舞台まであと四ヶ月、十一月二日（日）多賀市民プラザのホールにて、午前十時から二時間の子供たちだけによる江差追分の唄と踊りの発表会が始ります。

顧問 故本田義一氏と 追分大合唱で最後の別れ

江差追分会の顧問で、江差町名誉町民、勲五等双光旭日章、元江差町長の本田義一さん（九十三歳）の通夜と告別式が七月二十日と二十一日に町文化会館で町葬として営まれ、町内外から故人とのゆかりのある関係者が参列し本田さんを偲び冥福を祈った。

本田さんは、昭和四十一年に町長に就任以来、江差追分の無形民俗文化財指定や江差追分会館建設等追分振興に尽力。多くの追分関係者の方々から「追分町長」の愛称で親しまれた。お通夜では、幸子夫人のご希望でもあった、追悼追分合唱を各地から参

列してくれた約五十名の方々祭壇に向かつて、「泣いたとて遠く逝く人やらねばならぬ せめて波風おだやかに」の歌詞で故人と最後の別れを惜しみ、新たな涙を誘った。



青坂満師

北海道功労賞受賞

道内の経済、社会、文化などの発展に貢献した個人、団体をたたえる今年度の功労賞に当会副会長の青坂満師（七十六歳）が選ばれた。今秋の受賞は、青坂師の他に、J R北海道特別顧問の大森義弘さん（七十八歳）、北日本精機社長小林栄一さん（七十七歳）の二人。

この賞は、一九六九年に制定され、知事表彰の最高位に位置付けられているもので、受賞者には副賞として木製の椅子や記念バッジなどが贈られる。

贈呈式は、十月十四日に京王プラザホテル札幌で行われる。

〈功績〉

江差追分大会の審査員を長く務め、江差お追分会館の専任指導員や上席師匠として、郷土文化の振興と後継者育成に尽力。



江差追分セミナー

秋季講座（新設）への

受講者を募集！

今年新たに、従来から開設している二月のセミナーに加えて、次のとおり十一月（三週間）にも開設します。

これまでのセミナーには、全国各地から老若男女の方々が参加され、それぞれの出会いがあり、現在もお、交流が継続されていると聞きます。セミナーはまた、「人間交流」の場でもあるようです。受講ご希望の方は事務局までお申し込み下さい。

〈日程〉

- 第一週 十一月六日（木）～八日（土）
- 第二週 十一月十三日（木）～十五日（土）
- 第三週 十一月二十日（木）～二十二日（土）



〈内容〉

- 一日目（木）午前九時～午後五時
開講式 セミナー
- 二日目（金）午前九時～午後五時
セミナー
- 三日目（土）
セミナー・発表会・格付審査・追分酒場

〈クラス〉 初級・中級・上級

〈会場〉 江差追分会館

〈受講料〉 一万五千元

〈申込方法〉 電話・FAX

※詳しくは、後日お知らせします。
〈申込期限〉 各受講希望日の十日前まで

第二十三回国民文化祭

「いばらき二〇〇八」

〈こども芸術祭〉への出演

この事業は、未来を担う子供たちの豊かな感性や創造性を育むことを目的とするもので、文化面の国民的な事業です。今回は、愛知県岡崎市、豊田市、安城市、北海道江差町のこどもたちが日立市に集合します。唄、踊りの他に、江差追分の唄と踊りの指導や最後には合同の発表会があります。近郊にお住まいの方は、是非ご覧下さい。

一、と き 十一月二日（日）

午前十時～正午

二、ところ 多賀市市民プラザ

三、出演者名

〔江差町〕

〈唄〉 中島 琴美・中島 弥生

福田 光・田村つくし

〈踊り〉 明石 菜々・大原 寧々

高田ちなみ・常田瑛梨佳

吉見 円香

〔日立市〕 海野美由記・反町 莉子

田尻 美幸・田尻 美咲

伴奏

〔三味線〕〔豊田市〕 近藤 早梨

〔尺八〕〔安城市〕 岡田 晃輔

〔太鼓〕〔江差町〕 山本 歩

〔曲目〕〔岡崎市〕 天野まりあ

江差追分 唄・踊り（前～後）

江差馬子唄

道南ナット節

出船音頭

ソーラン節

事務局より

各支部・地区運営協議会からの情報をお待ちしております。

皆様方からの活動情報等何でも結構です。事務局まで。原稿と写真一枚を送付下さい。

〔編集〕 岩淵啓介・松村 隆

館 和夫・高田 裕

〔企画〕 江差追分会事務局